牧草と園藝

6

秋播の飼料作物特集號

雪印種苗株式會社

『望ましき草』の問題

ここ一、二年、大都市を中心とする牛乳の需要は、すばらしい勢でふえてきた。ことに東京はその代表的なもので、この夏は一日二千石を越すであろうといわれている。これらの牛乳は近接の蔬菜地帯と、近県のいわゆる酪農地帯から持ち込まれているが、需要の増加が招来した高値買入れは、著しく牛乳の生産を刺戟して新しい牛の飼養者もまた牛の頭数もふえてきた。そして輸送力の発達は次第に遠距離まで集乳の区域が伸びている。

□

牛乳の需要増加はまことに喜ばしい。これは都市の膨脹、市民の知性等様々の原因が重なり合つて、自然に牛乳を愛用するようになつたもので、一時的な現象ではないとおもう。この傾向は食糧の質の向上の上からも、また農業の経営を合理化する上からもますます推進せなければならないが、このためには、もつと牛乳の値段を安くする必要がある。

□

しかしながら、これを牛乳生産の面からみるとなかなか安くすることはできない。なぜ牛乳は安くできないか？　それには次のような原因がある。

第一に、牛乳の生産者は、そのほとんど全部が零細農であつて、土地の狭さに妨げられて、乳牛に最も必要な、また牛乳を安く生産できる牧草の栽培が思うようにできないということである。従つて購入飼料依存の経営を余儀なくせられて乳価が高くなければやつて行けないという悩みがある。

第二は、耕地は何といつても水田が多いに伴なわない。そこで牛乳代目当ての牛飼いが始まる、牛を飼う条件に非常に無理のある経営である。

第四は、労力の問題である。特に蔬菜栽培のような経営の中では労力の上で真正面から相剋する。

以上のように都市を中心とする牛乳の生産は、高乳価に恵まれて、表面は如何にも有利なように見えるが、実質的には脆弱面を持ち、今日の隆昌も一度低乳価という嵐に襲われれば、忽ち経営の根柢をゆすぶられる危険を包蔵している。

□

一般に生産物の販路を打開することは容易なことではない。ことに牛乳のような特殊なものにおいておやである。幸に今は生産が需要に追いかけられている。実に願つてもない絶好の機会であるからこの好機を逸することなく、徹底的にそれぞれの立地条件に適応する途を講じて将来のために安定策を確立すべきである。伝統のある旧き酪農地帯をみれば、皆よくその地方々々の特色と牛とをよく組合わせて堅実な経営を育て上げている。新興地帯でも如何にして購買飼料依存の経営から遠ざかり、自給飼料……草の栽培をとり入れるかに力を尽くしているところほど、経営を有利に展開して成績を挙げているのである。

□

乳牛を主体とする有畜農業は、今や日本農業の脱皮発展への最大の希望である。これがためには為政者も農家も根本的に草というものに対する認識を改めなければならぬ。日本の農業は幾千百年の間望ましくない草のために悩まされ続けてきた。新しき世代に息吹きするわれわれは、次の世代のためにも『望ましき草』に対する真の価値を、われわれの経営の上に実証し、お互の経営経済を高めるとともに、国民の食糧改善とその自給確立の上に、大きな転回をしなければならぬとおもう。更に特につけ加えておきたいことは、農地――農業を経営する場所は現在の耕地という平坦な場所に限られたものでないということである。スイスの農業はスイスに限られた特殊の形態であるとおもつては大きな間違いで、ヨーロッパの山國ではトイツでもオーストリーでも皆スイスのように、急傾斜の山の斜面に牧草を栽培して、平地が不足であるにかかわらず、いわゆる耕地の不足に手も足も出ないといつた愚を演じてはいない。穀作農では求めることのできない高貴な畜産食糧を生産しているのである。われわれもまた現在の耕地にのみちぢこまつて、国土の狭小を嘆く愚を棄てて、すべからく草を携えて山へ登るべきである。山へ登ることによつて、農地の零細化も農村の二三男対策も非常に緩和されるであろう。われらが「牧草」を称して『望ましき草』という所以は実にここにあるのである。（あおやま）

牧草と園藝　六月號　目次

□望ましき草の問題……田垣　佳雄…一
□草作の発展とその将来……山田　豊一…三
□水田の飼料作物と草生地の改良……福井　重郎…四
□関東地方の秋播飼料作物……林　英夫…六
□中国地方での重点作物は根菜類とベッチ類……西村　修一…七
□ゲンゲに代る瀬戸内地帯の赤クローバー……江原　薫…八
□九州地方の適作物……安孫子六郎…九
□雪印千葉育種場からみた秋播飼料作物とその収量……雪印千葉育種場…一三
□関東・中国・四国・九州等における秋播飼料の適作物とその栽培法……二
□有利な家畜かぶの栽培……二
□各飼料作物種子の価格……一五